

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

March 31, 2017 No.8

JACET 関東支部ニューズレター第 8 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 木村松雄 (青山学院大学)

JACET 関東支部ニューズレター (WEB 版第 8 号) をお届けいたします。JACET 関東支部副支部長であり関東支部ニューズレター委員会委員長の佐野富士子先生 (常葉大学) と副委員長の下山幸成先生 (東洋学園大学) を初めとする委員会の先生方の不断のご尽力にまずもって衷心より御礼申し上げます。また支部運営の中核としてご尽力を賜っている副支部長の笹島茂先生 (東洋英和女学院大学)、佐野富士子先生 (常葉大学)、事務局幹事の高木亜希子先生 (青山学院大学)、支部幹事の伊東弥香先生 (東海大学)、山口高領先生 (早稲田大学) にこの場を借りて御礼申し上げます。

本ニューズレターの刊行は、委員長と副委員長を核とする委員会の先生方と関東支部を支え運営して下さる多くの先生方の献身的なご支援と

チームワークそして何よりも相互の信頼関係があつてこそその所産に他なりません。紙面をもって、改めて衷心より御礼申し上げる次第です。

2013 年度より、学術研究発表は、「関東支部紀要」(*JACET-KANTO Journal*) (伊東弥香委員長) に掲載し、活動報告等は、本「ニューズレター (WEB 版)」(9 月と 3 月の年 2 回発行) に掲載しております。両者はそれぞれが独立した存在として機能する一方で、学会本体を支える車の両輪のような相互補完的な役割を有しております。引き続きご拝読頂き、ご批判とご指導を頂ければ幸甚です。

2017 年 3 月 (本年度末) には、関東支部創設 10 周年を記念すべく『JACET 関東支部創設 10 周年記念誌』(英文版) が刊行されます。関東支部創設に係わった JACET の諸先輩と各支部長か

目次

・ 巻頭言

支部長 木村松雄 - 1 -

・ 第 2 回支部総会報告

支部事務局幹事 高木亜希子 - 2 -

・ 月例研究会報告

月例研究会委員長 山本成代
月例研究会副委員長 河内山晶子 - 3 -

・ 青山学院英語教育センター・JACET 関東支部共催後援会報告

支部研究企画委員 菊池尚代
支部研究企画委員 米山明日香 - 4 -

・ 支部研究会活動報告 (2016 年度)
各研究会代表・副代表 - 6 -

・ 支部紀要編集委員会からのお知らせ
支部紀要編集委員長 伊東弥香 - 14 -

・ 事務局だより
支部事務局幹事 高木亜希子 - 15 -

らの祝辞、各部門からの10年間の時系列的報告に加え、支部大会にて基調講演等をして下さった明石康先生（国際文化会館理事長・元国連事務次長）、Dr. Peter Robinson（青山学院大学）、Dr. Margaret Gearon（メルボルン大学大学院）、Dr. Russell Cross（メルボルン大学大学院）等からの祝辞を含め、全て英語による初の記念誌となります。編集長の山口高領先生（早稲田大学）、副編集長の高木亜希子先生（青山学院大学）、新井巧磨先生（早稲田大学）を初めとする各部門の責任者の先生方のご尽力に衷心より御礼申し上げます。記念誌刊行を是非ご期待ください。

2017年8月29日～31日の期間、JACET第56回国際大会（青山学院英語教育研究センター共催・青山学院大学後援）が「English in a Globalized World : Exploring Lingua Franca Research and Pedagogy」を大会テーマの下に開催されます。基調講演者はDr. Barbara Seidelhofer（ウィーン大学）、Dr. Phyllis Ghim Lian Chew（シンガポール国立教育研究所）です。31日最終日には関東支部企画特別講演として「学習とは？（What is Learning?）」をテーマに講演とシンポジウムを行います。講演者は溝上慎一先生（京都大学）、シンポジストは溝上慎一先生（京都大学）、中野美知子先生（早稲田大学名誉教授）、森田正康氏（(株)ヒトメディアCEO）のお三方です。言語教育環境が「学習中心（Learning-Centered）」になりつつある予測の中で、改めて「学習とは何か？」「これからの英語教育はどうあるべきか？」等についてご専門の立場より熱く語って頂く予定です。ご期待とご参加を心からお願い致します。

2017年は、JACET関東支部にとって大きな節目の年となります。西年にちなみ、皆様と共に鳳凰の如く大空に飛翔できますよう、倍旧のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第2回支部総会報告

支部事務局幹事

高木亜希子（青山学院大学）

2016年11月12日（土）に、青山学院大学6号館第4会議室に於いて、2016年度第2回支部総会が開催されました。支部総会では、2017年度の事業計画、予算案、支部人事の報告と承認が行われました。以下に内容を記載いたします（なお、予算案は省略）。

■2017年度事業計画■

I. 大会、セミナー等の開催（1号事業）

(1) 支部大会の開催

2017年度は、関東支部担当で国際大会開催のため、支部大会は実施せず。

(2) 支部講演会の開催

名称：青山学院英語教育研究センター・JACET
関東支部共催英語教育講演会

日時：平成29（2017）年4月、9月、10月、12月、平成30（2018）年1月の5回を予定

場所：青山学院大学

内容：

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表する講演会を定期的実施する。
- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

規模：毎回約50名

(3) 支部月例研究会の開催

名称：関東支部月例研究会

日時：平成29（2017）年5月、6月、11月の3回を予定

場所：青山学院大学

内容：

- ・英語教育及び関連する分野にて、現在活躍中の研究者達による、最新の研究成果や知見を発表

する講演会を定期的実施する。

- ・英語教育をより実践に結びつけるため、実業界で英語コミュニケーションに携わっている専門家にも、講演を依頼する。

規模：毎回約 50 名

II. 『紀要』『支部ニューズレター』等の出版物の刊行 (2号事業)

- (1) 『JACET 関東支部紀要』5号 (英語名：

JACET-KANTO Journal)

日時：平成 30 (2018) 年 3 月 31 日

規模：約 1,100 冊

- (2) 「JACET 関東支部ニューズレター」第 9・10号

日時：平成 29 (2017) 年 9 月、平成 30 (2018) 年 3 月の 2 回を予定

規模：JACET 関東支部 HP に pdf として掲載

- (3) 『JACET 関東支部創設 10 周年記念誌』の刊行

日時：平成 29 (2017) 年 4 月 1 日

規模：約 1,100 冊

III. その他 (5号事業)

- (1) 支部総会の開催

名称：2017 年度第 1 回、第 2 回関東支部総会

日時：①平成 29 (2017) 年 6 月

②平成 29 (2017) 年 11 月

場所：早稲田大学、青山学院大学

目的：①2016 年度の関東支部の事業、会計報告、および 2017 年度の関東支部の事業計画、予算案および人事案を示す。

②2018 年度の関東支部の事業計画、予算案および人事案を示す。

- (2) 支部役員会の開催

名称：関東支部運営会議

日時：平成 29 (2017) 年 4 月、5 月、6 月、9 月、10 月、11 月、12 月、平成 30 (2018) 年 1 月、3 月

場所：青山学院大学

目的：支部の運営における審議、計画の立案

■2017 年度支部人事■

- (1) 支部役員

支部長：木村松雄 (2017 年 6 月定時社員総会後～2019 年 6 月まで)

副支部長：笹島茂

支部事務局幹事：高木亜希子

支部幹事：伊東弥香、山口高領

支部関係担当者：辻りりこ、米山明日香

支部研究企画委員：新井巧磨、飯田敦史、伊東弥香、伊藤泰子、今井光子、上田倫史、遠藤雪枝、大崎さつき、大野秀樹、大矢政徳、奥切恵、長田恵理、大和田和治、小田眞幸、小張敬之、加藤忠明、金指崇、川口恵子、清田洋一、熊澤孝昭、河内山晶子、菊池尚代、小屋多恵子、荊紅涛、斎藤早苗、酒井志延、笹島茂、佐竹由帆、佐野富士子、下山幸成、鈴木彩子、鈴木健太郎、関戸冬彦、高木亜希子、田口悦男、武田礼子、多田豪、辻りりこ、寺内正典、中山夏恵、濱田彰、古家貴雄、藤尾美佐、武藤克彦、山口高領、山本成代、米山明日香、渡辺彰子、Brian Wistner、Chad Godfrey、Paul McBride

月例研究会報告

月例研究委員会委員長

山本成代 (創価女子短期大学)

月例研究委員会副委員長

河内山晶子 (明星大学)

■2016 年度下半期活動報告■

2016 年度下半期は、11 月 12 日に立教大学名誉教授の鳥飼玖美子先生をお招きして、「<グローバル人材育成>政策が英語教育にもたらすもの」という題目でご講演していただいた。当日は 100 名近くの参加者があり、活発な意見交換も含めて

大変充実した研究会となった。講演内容に関しては後述の11月月例研究会報告参照。

■2017年度上半期活動計画■

2017年度上半期は、5月13日(土)に柴田真一先生(目白大学教授)、6月10日(土)に田中茂範先生(慶應義塾大学教授)をお招きしてご発表をお願いする。青山学院大学にて16:00~17:20開催予定。

■月例研究会11月報告■

日時:2016年11月12日(土)16:00~17:20

場所:青山学院大学6号館1階第4会議室

題目:「<グローバル人材育成>政策が英語教育にもたらすもの」

講師:鳥飼玖美子(立教大学名誉教授)

政府が2012年より推進している「グローバル人材育成」政策は、日本の英語教育に多大な影響を与えている。本講演ではまず、その影響の実態が、「英語格差」、「大学入試改革と英語検定試験」および「数値による成果主義」の面から検証された。

「英語格差」(English divide)とは、英語ができる人とできない人の間に生起する隔たり、つまり格差のことである。ITリテラシーの差によるIT格差(digital divide)は現代の大きな問題であるが、英語においても、話せる人は一般に「偉い」と見られ、一方苦手な人は就職もままならないというような現象が見られる。今回の政策はその潮流をさらに進めるものと考えられる。

次に、「大学入試改革と英語検定試験」の検証においては、入試の改革と称してTOEFLやTOEIC等の検定試験を導入することの不毛が指摘された。そもそもこれらの検定試験は、「北米の大学・大学院での学習や研究を可能にする英語力」や「ビジネスで機能する英語力」を測定する目的で作られたものであり、受験者たちが学んで

きた「学校で学んだ英語の習熟度」を測るために作られたテストではあり得えず、全く妥当性がない。しかもTOEFL等の語彙レベルは、学習指導要領による学習語彙数をはるかに越えている。

三つ目に検証されたのは、このような安易な解決策に走る教育行政、ひいては教師自身の教育理念である。根本的に考えたとき「果たして学習者のコミュニケーション能力は、このような『数値による成果主義』で測れるものなのか?」を、今一度問い直すと同時に、「本物の英語力とは何か」を考え直すことが、英語教育の喫緊の課題である。

最後に、英語格差の脅威及び学校教育とかけ離れた検定試験に翻弄される現代において、目指すべきこととして提案されたのは、「英語格差の壁を越え、英語を決して嫌いにならず、日本人としての考えを、国際共通語である英語を使って、自分の言葉で世界に発信すること」であった。この「グローバル市民としての異文化コミュニケーション能力の育成」こそが、学習者の視野を広げ、人生をも豊かにするとのメッセージであった。

青山学院英語教育研究センター・JACET

関東支部共催講演会報告

支部研究企画委員

菊池尚代(青山学院大学)

支部研究企画委員

米山明日香(青山学院大学)

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会(第3回)報告■

日時:2016年10月8日(土)16:00-17:30

場所:青山学院大学総研ビル9階第16会議室

題目:「大学英語教育のグローバルライゼーション-ELFプログラムの挑戦-」

講師:小田眞幸(玉川大学)

本講演は、近年注目されている共通語としての

英語 (ELF : English as a Lingua Franca) の習得を到達目標とする大学プログラムに関してであった。講演者は玉川大学にて、2014 年にアジア初の ELF を冠したセンター (CELFL: Center for English as a Lingua Franca) を設立し運営されており、そのご経験から様々な提案が提供された。特に、講演者の英語学習経験、教職課程受講者、大学院生、大学英語教員、教員養成担当者、そしてプログラム管理者としての英語教育、学習との関わりなどがセンターの理念に影響を与えたことを詳細にご教授いただいた。まず講演者が米国で目の当たりにした英語教育と自らの学びや、応用言語学と英語教育の乖離について言及があった。特に英語学習の到達目標がネイティブスピーカーを基準にしていることなどの事例とその影響も述べられた。次に玉川学園の英語教育の変遷が紹介された。玉川学園は小学校から大学まで同じキャンパスで運営されている日本では数少ない恵まれた環境であるが、少子化傾向への対応、中規模私立大学が提供できる特徴ある教育への模索、入試の多様化にともなう新入生の英語力への影響、実質的なグローバル化現象といった課題に直面していた。1990 年代後半にノンネイティブの外国籍教員の採用を始め、非難もあったが、EFL プログラムを開始、のちに ELF と名称を変更後に CELFL を設立、教員採用においてネイティブとノンネイティブの区別を完全撤廃することにより課題解決に光明を見出した。学生から評価も高く苦情もないが、現在進行形の課題としては、多文化・多国籍組織の運営、他部署や管理・運営スタッフの英語による業務などがあげられる。数々の小委員会を立ち上げ、適材適所に専任教員を配置、学会発表や論文執筆の援助、イベントの開催、他部署との共同プロジェクトへの積極的参加の奨励など、改良を重ねて進展している。大学の ELF プログラム立ち上げという極めて貴重な実践事例は我々に多くの示唆を与えてくれた。

(菊池尚代・青山学院大学)

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会 (第 4 回) 報告■

日時：2016 年 12 月 10 日 (土) 16:00-17:30

場所：青山学院大学総研ビル 9 階第 16 会議室

題目：「言語学習におけるモチベーション理論：現場に何が生かせるか」

講師：菊地恵太 (神奈川大学)

本講演では、英語教育のモチベーション理論をご専門とされている講演者のこれまでの研究から最新の理論と応用までをわかりやすくご紹介いただいた。動機づけは社会心理学、教育心理学、社会文化、社会構成主義、方略、動機喪失など、あらゆる角度から広く研究が行われてきた。多くの場合、学習者のニーズ分析、成功者の特徴、学習ストラテジー、自立学習の過程、学習スタイルなどの要因分析が用いられ、また心理学では帰属理論、自己効力感、自己決定理論などから議論されてきた。実際、動機づけ議論で良く用いられる統合的動機、道具的動機、内発的動機、外発的動機といった分類用語の多義性は、英語教員のみならず多くの人々を悩ませるところであろう。本講演では講演者が授業でも利用しているというアクティビティを通して、参加者自らが英語学習動機の変化を振り返った。このアクティビティから講演者の研究の中心である動機減退要因や高揚要因の解明の難しさを実感する経験を得た。特に動機減退は動機づけとは逆ベクトルを向いているのだが、その要因は場合によっては動機づけにも減退要因にもなりうる点だ。例えば、テストの点が悪かったから次回頑張ろうとやる気が高まった場合と、悪かったからやる気がなくなった場合、さらに、その要因となる感情は変化しやすく、どちらのベクトルにも瞬時に働く可能性がある。講演者の関心と研究の中心は、いかに学習者の動機づけを持続させるかであり、講演はダイナミック・システム・セオリーを利用し、そのメカニズム解明に向けた最新の研究へと進んだ。最後は講

演者からやる気を伸ばす語りかけや、意欲を高める教員態度や教室の雰囲気づくりのご提案もあり、研究理論と実践の両面から学ぶ貴重な機会となった。複雑な動機づけは個々の学習者によって異なり、またそれは不透明に流動的であるため、教員は常に細心の配慮が必要であることを改めて痛感させられた。

(菊池尚代・青山学院大学)

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会（第5回）報告■

日時：2017年1月21日（土）16:00-17:30

場所：青山学院大学総研ビル9階第16会議室

題目：「効果的な音声指導：発音指導からスピーチ指導まで」

講師：米山明日香（青山学院大学）

本講演は、英語発音を効果的に指導する際に必要となる現状分析から始まり、具体的な指導手段までを、講師のこれまでの指導経験や研究を踏まえてお話されたものである。

まず、英語発音を指導する際の問題点を(1)学習指導要領に見る国の方針、(2)教える側、(3)教わる側から指摘された。具体的には(1)の国の方針における問題点は、小学校では「聞くこと」と「話すこと」を乖離させて捉えている可能性があるという懸念、中学校では音声指導を積極的に進めるように求めているが指導者が適切にそれを行う知識が十分にあるかという懸念、高校では音声指導の目標が漠然としていることなどに触れられた。(2)の教える側からの問題点としては、発音指導に対する教員の意識、指導実態、教員育成課程における現状、学生の置かれている環境の変化などについて、アンケート調査をもとにご説明された。(3)の教わる側からの問題点としては、電子辞書や音声機器の使用によって、漠然と発音を捉える傾向が強い結果、誤った発音をする学生が増加しているといった現状についてもお話し

された。

次に、発音指導をする具体的な手段としては、(1)日本人英語学習者を対象にした実験結果をもとにした母音・子音・イントネーション・リズムなどの日本人特有の英語発音上の問題点を教員が理解し、それを難易度順に効率的に教える方法や、(2)小学生などの低学年にはピクトグラムを活用すること、(3)中学生以上は音声だけでなく写真といった媒体を使うことによって視覚的に指導することの重要性についての言及があった。また、(4)通訳者や通訳訓練生を対象にした音読時と通訳時のイントネーションの違いを示す実験結果をもとに、生徒や学生が音読時と会話時を比べるとどのようなイントネーションの変化が考えられるかについての予測を立て、その予測をもとにどのように発音指導を行えば良いかという提案があった。

これらの日本人の英語発音に見られる発音上の弱点を加味して、発音・スピーチ指導に繋げていくことが重要であると締めくくられていた。

(菊池尚代・青山学院大学)

支部研究会活動報告（2016年度）

各研究会代表・副代表

■教育問題研究会■

代表：清田 洋一

2016年度の研究会活動報告

中心的研究テーマ

- ・『言語教師のポートフォリオ』【小学校英語教師編】の開発
- ・J-POSTL活用事例の研究
- ・外国語学習における異文化理解教育
- ・小学校英語教育の研究
- ・『言語学習ポートフォリオ』の開発

上記をテーマに、日常的な活動として、研究会活動打ち合わせ会議を年8~10回開催した。この

ほかに、会の主催の講演会やシンポジウムを行った（異文化間理解教育についての講演会とシンポジウムなど）。特に、研究会の最も大きな研究大会として「言語教育エキスポ 2016：2017年3月5日（日）」を主催した。

研究成果の報告として、紙媒体とオンライン（print edition ISSN: 2188-8256/online edition ISSN: 2188-8264）研究会会誌「Language Teacher Education 言語教師教育」2016 Vol.3 No.2（7月）、Vol.4 No.1（2017年3月）を発行した。内容は、J-POSTL の適用可能性と活用方法に関する論文、実践報告、および、その関連領域に関する論文、研究ノート、実践報告、特別記録、書評などとなっている。

2017年度上半期の研究会活動計画

- ・研究テーマ：2016年度のテーマに継続的に取り組む予定
- ・研究発表予定：J-POSTL を活用した英語教師教育、外国語学習における異文化理解教育、小学校英語教育の研究、『言語学習ポートフォリオ』の開発
- ・研究会会誌の発行「Language Teacher Education 言語教師教育」2017 Vol.4 No.2（7月）、Vol.5 No.1（2018年3月）発行予定
- ・『英語科教育の基礎と実践』全面改訂版、三修社（2018年3月予定）

■テスト研究会■

代表：中村 優治

1. 研究テーマ

今年度も、昨年度に続き最新の理論を取り入れつつ進めてきた「スキル統合型テスト」の作成及び評価方法についての研究を、実践に結びつけることを目指して様々な検証を行った。その中心テーマは、「日本の英語教育のための Assessment Literacy の一覧表作成」と「スキル統合的テスト

の開発」であった。どちらのテーマについても新しいアセスメントの方法を教師教育に反映していく必要があるため、教師教育に関する書籍も読書会で取り上げた。

2. 活動内容

(1) 上記目標に沿って下記の言語テスト、アセスメントに関する書籍の読書会を行い、各章について、毎月の例会で担当の委員が発表し、ディスカッションを行った。

- ・Wilson, R & Poulter, M. (2015). *Assessing Language Teachers' Professional Skills and Knowledge (Studies in Language Testing #42)*.
- ・Read, J. (2015). *Assessing English proficiency for university study*. New York: Palgrave Macmillan.

(2) 評価に関するワークショップを開催し理論と実践の融合を図った。

学部及び大学院で英語科教育法を受講している学生を主たる対象として9月8日に第9回夏期ワークショップを実施した。学習指導要領の目標の一つである「スキル統合的指導と評価」をテーマに掲げ、アセスメントの基本的な理論、構成概念、評価法、項目分析に関する講義、モデル授業、参加者によるテスト作成とその批評活動及び評価結果の分析を行った。

(3) 学会発表において研究成果を共有し、分析・議論を深めた。

読書会から得た知見に加えて、国内外のスキル統合型テストの評価方法の分析、毎年開催しているワークショップのアンケート分析結果などを基に、スキル統合型テスト作成のための Can-do チェックリストの精緻化について学会発表を行った。実践への適用においては、各教員が日々の授業の中でスキル統合型テストを作成できるように、Assessment Cycle の考え方を反映させたテスト作成モデルを構築し、学会でのワークショ

ップを通じて参加者と共有した。発表を行った学会は以下のとおりである。

JACET 関東支部大会 (7 月早稲田大学)、全国英語教育学会全国大会 (8 月独協大学)、PAAL 国際大会 (8 月台湾淡紅大学)、JACET 国際大会 (9 月北星学園大学)、JALT 全国大会 (11 月名古屋)。

3. 今後の活動予定

(1) 「日本の英語教育のための Assessment Literacy の一覧表の更なる精緻化：多様な実践ニーズを反映させる」

上記 Assessment Literacy の理論的・実践的検証結果をもとに、多様な実践ニーズに応えられるよう、一覧表の更なる精緻化を目標に実践的研究を積み重ねていく予定である。

(2) 「スキル統合的テストの開発」

2016 年度に引き続き、スキル統合的能力テスト (特にスピーキングおよびライティングテスト) に必要な評価項目、基準 (ルーブリック)、テスト方法などの開発・検証を目標として活動する予定である。

(3) 昨年に引き続き 9 月にワークショップを開催する予定である。

(4) テスト研究会の年次活動報告書と Monograph No.3 を刊行予定である。

■ 談話行動研究会 ■

代表：池尾 玲子

談話行動研究会では、言語とコミュニケーションの様相を様々な角度からとらえるべく、今年も多彩な講演者をお迎えし、講演会や研究会を行いました。

6 月 17 日には “The role of language use in second language development” と題し、専修大学講師宮田宗彦氏にご講演をいただきました。宮田氏は第二言語習得の立場から、人工言語を使っ

た言語習得を観察する実験データをもとに、言語規則の習得段階を客観的に分析され、英語教育の在り方についても示唆に富んだ内容でした。

12 月 18 日にはロンドン大学 Tom Morton 教授による講演会を “Multimodal and multilingual approaches to analysing classroom interaction in CLIL classrooms” というタイトルのもと催しました。Morton 教授は豊富な授業のビデオデータをもとに、どのような場面で、どのような言語・非言語手段が生徒・学生の理解を深めるのかということ、具体的に分析され、大変興味深い内容でした。

またこの原稿を執筆しております 2 週間後の 3 月 20 日には、会坂一馬氏 (立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士前期課程 2 年) が「LINE のスタンプが果たす機能：ディスコース・マーカーの機能に基づく一考察」、松本麻里氏 (立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士前期課程 2 年) が「無声アニメーション説明課題における聞き手の協同的参与：日本語および韓国語話者のナラティブ事例をデータとして」というタイトルで、それぞれの研究成果を披露してくれることになっております。

この期末の大学院生による発表会は当談話行動研究会の恒例行事であり、本会が必ずしもベテラン研究者だけでなく、新進気鋭の研究者にも広く開かれたものであることをご理解いただけることと思います。本年度は、先の講演会にも多数の大学院生の参加があり、特にうれしいことでした。

国際、学際をモットーとする当研究会は、分野国籍を問わず、新年度も皆様のご参加をお待ちしております。

■ ESP (関東) ■

Chair : SHI Jie

Vice Chairs: Reiko Fujita, Shin'ichi Hashimoto

I. Overview of 2016

JACET ESP SIG Kanto Chapter, under the continued leadership of SHI Jie (UEC Tokyo), and two vice-chairs, Reiko Fujita (Tokai University) and Shin'ichi Hashimoto (UEC Tokyo) has enjoyed another active year. The biggest highlight was co-organizing the Joint International Conference on ESP in Asia 2016 in August. This was the first time that this conference took place in Japan with approximately half of the participants attending from overseas. This conference provided numerous opportunities to establish and renew bonds of friendship in a network to promote ESP throughout the world. Besides this conference, we held four regular chapter meetings in May, July, November and January with presentations on the theme of English for Business Purposes (EBP). In September, we presented a poster about our chapter at the 55th JACET International Convention in Sapporo, and in March, we will publish Volume 18 of our Annual Report. Details including abstracts and bios of presenters, back issues of the annual report as well as the most recent Call for Papers for our journal can be found on our chapter webpage (<http://jacet-esp-kanto.org/>). All are welcome to browse through our past publications and check the details of our activities of the past and the future. As for 2017, our chapter will focus on the two themes of EAP and tourism. We are planning 3 or 4 chapter meetings for the year as well as issuing another volume of our Annual Report.

II. Meetings and Events

● Chapter Meetings

Date: May 28, 2016 (Sat) 15:00-17:00

Venue: University of Electro-Communications (UEC Tokyo), Building East 1-602

15:00-17:00 Business meeting (Planning of 2016 events, Annual Report matters, etc.)

Date: July 2, 2016 (Sat) 15:00-17:00

Venue: Saitama University, Lecture Building 1-201

Program:

15:00-15:40 Presentation 1 by John Reilly (Asia Business Development for Observatory Group, Japan) *Course Development of EBP Classes for Japanese Universities*

15:50-16:30 Presentation 2 by Sophia Butt (Birmingham University, UK) *Authentic EBP Course Design – Key Considerations*

16:30-17:00 Business Meeting

Date: November 13, 2016 (Sun) 15:00-17:00

Venue: University of Electro-Communications (UEC Tokyo), Building East 1-705

Program:

15:00-15:30 Invited Presentation by Kevin Knight (Kanda University of International Studies) *Conceptualizations of ESP in the ESP Interest Section of TESOL International Association*

15:30-16:00 Experience Sharing of JACET National Convention and other conferences

16:00-17:00 Business Meeting

Date: January 21, 2017 (Sat) 15:00-17:00

Venue: Tokai University, Yoyogi Campus, Building 4-4201

Program:

15:00-16:00 Invited Presentation by Philip McCasland (Fukushima University)

Teaching Entrepreneurship: Policy, Framework,

Method, Practice

16:00-17:00 Business Meeting

●International Conference

JACET ESP SIG Kanto Chapter (co-organizer)
The 8th International Conference on ESP in
Asia & The 3rd International Symposium on
Innovative Teaching and Research in ESP in
Japan

(<http://www.g-edu.uec.ac.jp/jointesp2016>)

Date: August 19-21, 2016 (Fri-Sun)

Venue: University of Electro-Communications
(UEC Tokyo)

■言語政策研究会■

代表：杉野 俊子

2000年に田中慎也氏と三好重仁氏の発案で発足した言語政策研究会は、以下の二つの研究テーマを持って研究活動をしている。1. グローバル化の中で、英語の影響力をどのようにとらえるのか。多言語社会や少数言語とのすり合わせ、英語教育の在り方などを考察していく、2. 言語と権力の間にはどのような関連があるかについて、日本および世界各国における実態を言語と少数派の枠組みから考察していく。2016年度下半期は、以下の(1)～(4)のような活動をした。(1) 月例研究会：東大駒場キャンパスを会場として毎月第3土曜日に行う。決められた専門書Stephan May (2012) *Language and Minority Rights*に引き続き D. F. Lancy (2007) *The Anthropology of Childhood* を丹念に読み進めていった。各章を、担当者がレジュメに基づき報告していき、その後、参加者全員によって意見交換をした。(2) 研究発表：読書会と並行して、会員・非会員による研究発表を実施した。新鮮なテーマによる発表を受けて、活発な質疑応答が毎回なされた。(3) JACET年次大会では SIG の発足時からの活動内容を記したポ

スターで参加。(4) 例会における議論を出発点として、研究会の会員が中心となり、『英語デトックス：世界は英語だけじゃない』(2016) 山本・江田編著(くろしお出版)を出版した。

2017年度上半期の研究会活動は、2016年のテーマに、賛成・反対という二分法的に議論されがちな摩擦や衝突を乗り越え、未来に向けて第三の道を提示していくことを加える。引き続き、以下の(1)～(4)のような研究会活動をする。(1) 月例研究会。(2) 研究発表：読書会と並行して、会員・非会員による研究発表を年に8～10回実施する予定。(3) JACET全国大会に、『言語政策と教育—グローバル化時代の言語・教育問題』というシンポジウムを申し込んでいる。(4) 研究会員が中心となり「言語と教育(明石出版より2017年6月)」と「*The Anthropology of Childhood* (翻訳、2018年3月)の専門書を出版する予定である。

■授業学研究会■

代表：馬場 千秋

副代表：林 千代

1. 研究テーマ

本研究会は、「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとしている。少子化、大学全入時代に伴う大学生の学力格差が生じている大学英語教育の現状を踏まえ、学習意欲のない学生や英語を不得意とする学生への対処法とよりよい大学英語授業について探求している。2015年度より、英語リメディアル教科書の分析を開始し、その結果を発表している。

2. 活動内容

2016年4月23日(土)

於：マイスペース 中野北口店
・英語リメディアル教科書分析

2016年5月21日(土)

於：マイスペース 四谷店

・英語リメディアル教科書分析および学会発表準備

・第 55 回国際大会研究会ポスターセッションについて

2016 年 6 月 25 日 (土)

於：マイスペース 新宿西口店

・学会発表準備および教科書分析の視点についての審議

2016 年 7 月 30 日 (土)

於：帝京科学大学千住キャンパス 第 4 会議室

・英語リメディアル教科書分析結果のまとめ、学会発表準備

・第 55 回国際大会での研究会ポスターセッション用ポスター作成

2016 年 8 月 17 日 (水)

於：帝京科学大学千住キャンパス 第 4 会議室

・学会発表準備 (発表スライドの検討)

・第 55 回国際大会での研究会ポスターセッション用ポスター作成および最終確認

2016 年 8 月 20 日 (土)

於：獨協大学

・全国英語教育学会第 42 回埼玉研究大会にて研究発表

2016 年 9 月 1 日 (木) 2 日 (金) 3 日 (土)

於：北星学園大学

・第 55 回国際大会での研究会ポスターセッション参加

・関東支部、中部支部、関西支部合同でのシンポジウム実施

2016 年 10 月 1 日 (土)

於：マイスペース 市ヶ谷駅前店

・全国英語教育学会、第 55 回国際大会発表報告、継続研究の内容検討

2016 年 10 月 22 日 (土)

於：マイスペース 新宿南口店

・英語教育セミナー準備

2016 年 3 月 19 日 (土)

於：マイスペース

・英語リメディアル教科書分析、学会発表準備

2016 年 11 月 5 日 (土)

於：青山学院大学

・英語教育セミナーでの発表

2016 年 11 月 26 日 (土)

於：マイスペース 新宿南口店

・英語教育セミナー反省、継続研究について

2016 年 1 月 28 日 (土)

於：マイスペース 市ヶ谷外堀通り店

・来年度の活動について、学生へのインタビュー結果 (パイロットスタディ) まとめ

2016 年 2 月 9 日 (木)

於：帝京科学大学千住キャンパス 第 4 会議室

・アンケート項目の検討

2016 年 3 月 9 日 (木)

於：帝京科学大学千住キャンパス 第 4 会議室

・アンケート項目の検討

3. 今後の活動予定

2017 年度は、英語リメディアル用教科書のニーズ分析を行い、その結果を発表する予定である。また、第 56 回国際大会のワークショップ、英語教育セミナーなどでも、よりよい英語授業のあり方について紹介する予定である。

■教材研究会■

代表：大山 中勝

教材研究会では、これまで「大学生の基礎英語力」をテーマとして調査研究を実施し、最近ではこの調査結果を基にテキストの開発を進めてきました。このテキストを開発するのに重要な項目として次の 2 点が挙げられます。基礎英語力の総合的な質問項目に対するデータを分析した結果、重要だと思われる文法事項と学生が日本について情報を発信する時に必要だと思えるトピックを中心に構成されています。

本書ではアクティブ・ラーニングの視点から、

学生が主体的な学びに始まり、対話的な学びで互いに学びあい、深い学びで問題点の発見・解決方法・自分の考えの形成等ができるように強調しています。今回の教材開発において学生の英語学習の主体的取り組みを支援できるような教材を編集しております。特に「日本文化を発信する」という積極的な学習態度を支援しつつ、基礎文法の活用の仕方を紹介することにより、大学入学生ができないと思っているコミュニケーション能力を養成できるような教材作成に努めております。具体的なトピックシラバスとして忍者や日本人独特のコミュニケーションスタイルや日本の教育について等日本的なトピックを取り扱っております。またそのようなトピックを取り扱うときに言語活動として様々な言語活動を取り入れて学生がコンテンツとコミュニケーションを相互補完的に学ぶことができるよう努力しております。このテキストを通して、多くの学生が日本文化について考える機会になり、その情報を発信するチャンスが増えることになるであろうと期待しております。

来年度もこの活動を継続し、教科書としてまとめていきたいと考えています。まずこのテキストを出版する業者を選定し、その後に大学英語教育学会の理事会の承認を受ける予定を設定しております。

■日英比較語法研究会■

代表：鈴木 繁幸

旧名 JACET 語法研究会は、英語教員と英語学習者に日英両語の語法に関し有益な情報を提供することを目的とし、1985 年の発足以来これまでの活動の成果として、4 冊の出版物を世に問うてきましたが、2016 年 4 月より「日英比較語法研究会」と名称を変え再出発しました。2016 年度下半期の活動は次の通りです。

9 月 1 日～3 日に開催された、JACET 第 55 回

国際大会におきまして、ポスターセッションに参加し、ご来場の多数の方々に、研究会の過去—現在—未来を知っていただき、貴重なご質問やご意見をいただきました。以降は、9 月 11 日（日）、11 月 26 日（土）、2 月 11 日（土）のほぼ隔月に研究会を各回 4 時間行いました。各回ともに、昨年度の研究対象である、「身体部位」に関する表現に関し、冊子とするためのフォーマット等の具体的な検討を行うとともに、新研究材料である、日英語の「色」に関する研究を並行して行いました。その研究内容と手法は以下の通りです。

日英両語の「色」に関する語法を、概念的意味 (conceptual meaning) と内包的意味 (connotative meaning) の両面から、COCA や BNC などのコーパスのデータを参考にして表現例を抽出し、比較対照し研究しました。とりわけ両言語の word, phrase, sentence の各レベルにおける意味・用法の「ずれ」が発想形式の相違にあることに重点を置いて分析してまいりました。このような、日英両語特有の語法 (culture-bound usage) を研究することにより、表現力に幅と厚みが加わり、英語コミュニケーション能力向上の一助となるからです。そして本研究も、一定の研究成果が得られた段階で、教材等の形で発表する予定です。

2017 年度の上半期は 4 月 22 日（土）の第 1 回研究会から始まりますが、基本的には 2016 年度の後半に行った「色」に関する研究を仕上げるとともに、新たなテーマの発掘を各研究員が行い、研究会にて議論していく予定でおります。

■学習者要因研究会■

代表：林 千代

副代表：吉原 令子 岩本 典子

1. 研究テーマ

近年、第二言語・外国語学習に影響を与える「学習者要因」や「個人差」に焦点を当てた研究が進んでいる。学習者の個人差要因にどのような要因

を含めるかについては、研究者により見解が分かれるが、言語適性、認知・学習スタイル、言語学習ストラテジー、モチベーションなどが含まれる。このような学習者のさまざまな要因を理解することは、学習者をより多面的に理解し、言語学習における個人差を明確に把握することにつながり、その結果、個々の学習者に対してより適切な授業を行うことが可能となる。2016年に発足した本研究会は、これらの個人差要因と学習者の学び方や達成度の関連を研究することを目的とする。

2. 活動内容（場所：東洋大学白山キャンパス）

(1) 月例会

5/28 発表者決定と読書会の準備:

The Psychology of the Language Learner: Revisited (PLL) by Dörnyei and Ryan (2015)を読むことに決定する。

6/25 研究発表

① “Content-based instruction and motivation”
林千代（国立音楽大学）

② “Building a personality test for language learners” オマール・カーリン（明治大学）

7/23 ワークショップ

“How to conduct interviews for qualitative research” サラ・ホーランド（東洋大学）
読書会: PLL Chapter 1 Introduction

10/22 研究発表

“Understanding learner anxiety in foreign language learning: A qualitative study of Japanese university learners of English”
大畑甲太（フェリス大学）
読書会: PLL Chapter 2 Personality

11/19 研究発表

“International female students’ perceptions toward English learning in Japanese universities” 吉原令子（日本大学）
読書会: PLL Chapter 3 Aptitude

12/17 研究発表

“L2 motivational change of Japanese engineering majors during their first year at university” 岩本典子（東洋大学）
読書会 PLL Chapter 4 Motivation

1/19 研究発表

① “Mixed-heritage and non-Japanese students’ negotiation of identities” 倉田綾香（防衛大学）

② “Music college students’ motivation for learning English” 林千代（国立音楽大学）

(2) セミナーの開催

3月11日（土）に、Stephan Ryan先生（早稲田大学）と菊地恵太先生（神奈川大学）を講師としてお迎えし、東洋大学白山キャンパスにて、セミナー（テーマ：第二言語学習者のモチベーション）を開催した。

3. 今後の活動予定

2017年度は、さらに活動を充実させ、月例会および様々な学会で研究発表を行う予定である。研究手法に関するワークショップおよび読書会も継続して行う。研究会のプロジェクトとして、共同研究も行う予定である。

■ English as a Lingua Franca (ELF) 研究会
代表：村田 久美子

2016年4月に20名の設立メンバーでスタートしたELF研究会も、2016年度上半期に2回の研究会、また9月のJACET国際大会での研究会メンバーを中心としたシンポジウム開催を経て、既に会員数はその3倍近くとなり、研究活動も大変活発になってきている。以下、2016年度下半期の研究会活動と2017年度上半期の活動計画を箇条書きで紹介する。

【2016年度 下半期の活動報告】

1. ジャーナル

ELF研究会主催イベントをもとに、2017年3

月末を目途に *Journal of JACET ELF SIG* (電子版) を創刊予定。最先端の ELF 議論を日本の大学教育との関連で展開するプラットフォームにすることを旨とし、将来的には、広く投稿論文も募る予定。

2. ELF 研究会関連イベント

(1) 第 6 回早稲田 ELF 国際ワークショップ (2016.11.11-12)

ELF 研究会協賛のもと、Maria Kuteeva 氏 (ストックホルム大学) と Anna Mauranen 氏 (ヘルシンキ大学) を迎え、アカデミック・ライティングに ELF の視点から焦点を当てて実施、ELF 研究会員も発表者やパネリストとして積極的に参加し、多数の ELF 研究会員が参加。

(2) 全国語学教育学会 (JALT) 第 42 回国際年次大会 (2016.11.25-28) で数名の ELF 研究会員が参加、発表。

(3) Chris Hall 氏 (ヨークセントジョン大学) 公開特別講演 *Cognitive perspectives on ELF*
(2016.12.14)

玉川大学 Center for English as a Lingua Franca 主催のもと、ELF 研究会員も出席。

(4) 久保田竜子氏 (ブリティッシュコロンビア大学) 早稲田大学公開特別講演 *Language choices for corporate work in non-English-dominant Asia* (2016.12.16)

ELF や多言語主義の観点も議論され、ELF 研究会員も出席。

(5) 早稲田大学教育総合研究所教育最前線講演会「英語で教科内容や専門を学ぶ」(2016.12.17)

ELF 研究会員も EMI 関連の発表や討論に参加。

(6) 第 2 回 早稲田 EMI-ELF ワークショップ
(2017.2.25)

Andy Kirkpatrick 氏 (グリフィス大学) を迎え、日本やアジアにおける EMI の現状と今後について ELF の視点から焦点を当てて実施され、ELF 研究会員も発表者、パネリスト等として数多く参加。

【2017 年度 上半期の活動予定】

1. ELF 研究会主催イベント

(1) シンポジウム *ELF and native-speakerism*
(2017.4.29)

ELF 研究会外部からもパネリストを招き、ELF とネイティブ主義の関連を多角的に議論する予定。

(2) ワークショップ *ELF and pedagogy*
(2017.5)

英語教育及び CLIL/EMI の現状と今後の課題を、ELF 理論の視座から議論する予定。

2. ELF 研究会関連イベント

(1) 10th Anniversary Conference of English as a Lingua Franca (2017.6.12-15)

ELF 分野における最大の国際大会で、今回はヘルシンキ大学で行われ、ELF 研究会員も様々な形で多数参加予定。

(2) JACET 44th Summer Seminar
(2017.8.26-27)

ELF 研究会協賛のもと、Barbara Seidlhofer 氏と Henry Widdowson 氏 (共にウィーン大学) を迎え、ELF に焦点を当てて実施される予定。ELF 研究会員も様々な形で多数参加予定。

(3) JACET 56th International Convention
(2017.8.29-31)

ELF 関連のテーマで行われる年次国際大会として、ELF 研究会員も個人発表やシンポジウム等で多数参加予定。

支部紀要編集委員会報告とお知らせ

支部紀要編集委員長

伊東弥香 (東海大学)

支部紀要編集委員会では毎年 3 月末に紀要を発行しています。現在、2016 年度の「関東支部紀要・第 4 号 (*JACET-KANTO Journal Vol. 4*)」完成に向けて、校正作業を行っています。(2017

年3月発行予定)。会員の皆様には、4月中にお届けする予定です。

第4号には、特別寄稿1本、論文2本、実践報告2本を掲載しています。特別寄稿は、岡秀夫先生（元目白大学教授・東京大学名誉教授）に『英語教育学研究：残された課題』を執筆いただきました。本論では日本人の英語力の特異性を検証し、日本の英語教育の根本的な課題や展望が議論されています。

紀要発行にあたっては、毎年、会員の皆様のご理解とご協力に支えられて作業をしています。第4号においても、執筆者の方々はもちろんのこと、査読システムに登録くださった先生方、審査を快くお引き受けくださり、投稿者への的確なアドバイスやコメントをお寄せくださった査読者の先生方に、多大なご尽力をいただきました。この場を借りて、改めてお礼を申し上げます。

2013年度・第1号の創刊以来、より良い紀要を目指し、当委員会では小さな変革を続けております。第4号では、JACETロゴを使用し、紀要の中扉、ページレイアウトを変更しました。会員の皆様に気に入っていただけると幸いです。また、英語による投稿論文や、日本語使用者以外の投稿を奨励するために、本紀要の2言語化を進めています。今回は「JACET 関東支部・紀要募集要項（第5号）」をバイリンガルにしました。今後も、委員の意見や工夫を積極的に取り入れながら、査読システムを活用したピア・レビューによって、投稿者と査読者がお互いに学び合い、高め合う機会を提供できるよう、改革を進めていく予定です。2017年度・第5号の投稿締切日は2017年7月20日（木）です。皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

紀要編集委員会メンバー：伊東弥香（委員長）、今井光子、大野秀樹、長田恵理、小田真幸（副委員長）、熊澤孝昭、武田礼子、濱田彰、古家貴雄、星野由子、Chad Godfrey、Paul McBride（敬称略、50音順）

事務局だより

支部事務局幹事

高木亜希子（青山学院大学）

■青山学院英語教育研究センター・JACET 関東支部共催講演会及び月例研究会開催のお知らせ■

下記のとおり、共催講演会及び月例研究会を実施いたします。多くの皆さまの参加をお待ちしております。詳細は支部HP、支部会員MLでお知らせいたします。

(1) 2017年度第1回共催講演会

日時：2017年4月8日（土）16:00-17:30

場所：青山学院大学総研ビル（14号館）9階第16会議室

題目：「英語教育研究における混合研究法の可能性」

講師：抱井尚子（青山学院大学）

(2) 2017年度月例研究会

日時：2017年5月13日（土）16:00-17:20

場所：青山学院大学総研ビル（14号館）9階第16会議室

題目：「英語運用力向上の秘訣」

講師：柴田真一（目白大学）

(3) 2017年度前期の開催予定

2017年度 JACET 関東支部月例研究会（6月）

日時：2017年6月10日（土）16:00-17:30

2017年度第2回共催講演会

日時：2017年9月9日（土）16:00-17:30

■住所変更届提出のお願い■

支部会員の皆様に、支部大会のご案内や支部紀要を確実にお届けするために、転居の際には、[JACET 本部事務局](#)へ住所変更届けを提出してくださいませよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

***JACET-Kanto Newsletter* 第8号**

発行日：2017年3月31日

発行者：JACET 関東支部（支部長 木村松雄）

編集者：佐野富士子、下山幸成、

齋藤早苗、川口恵子

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学文学部英米文学科

木村 松雄 研究室内